

北海道大野農業高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II)

全国の農業高校の行動計画		学校において令和7年度に重点化する取組及び具体的方策		
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	目標達成期間	具体的方策
I グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	農業クラブ活動や資格取得を充実させ、主体的学習意欲を高め、進路実現を目指す。	A	農業クラブ活動や資格取得によって自信を持たせ、自己肯定感を高めさせる。
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	GAPやSDGs、みどりの食料システム戦略を意識させ、世界を意識した農業を感じられるような農場の充実を図る。	B	実習で常に世界を意識できるように掲示教育の充実を図る。
II 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	GAPを理解し、地域の特産物を広められるような人材育成を目指す。	B	道南経営者育成対策協議会をはじめ、1年次より地域農業を理解させ地域の指導者を目指した研修を実施する。
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	6次産業化・農福連携を意識しながら、GAP・HACCPなど学科の特徴を生かし農業の魅力を伝え農業後継者や関連産業従事者の育成を図る。	B	農業を支える職業を理解し、生産者はもちろん、多方面の関連産業への進路を実現させる。
III 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	GAP・SDGs、みどりの食料システム戦略を通して国土保全・地球環境に興味関心を持たせ、農業の面から貢献する態度を育てる。	B	実習でGAPやSDGs、みどりの食料システム戦略を身近な問題と考え、意識し取り組む大切さを理解させる。
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	地域特産物を用いた食育教育を充実させ、農と食の重要性を幅広い年代に伝える。	A	地域の園児・生徒・生徒だけでなく保護者などを巻き込んだ食農教育など外部へのPRを強化する。
IV 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	ICTを用いた学習を充実させ、これからの時代に対応できる農業観を持った人材を育成する。	A	農業改良普及センターや企業との連携を強化し、ICTを活用して地域農業課題解決を目指す。
V 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	安全教育を徹底し、地域防災を意識した危機管理能力の向上を目指す。	B	農業の多面的機能を理解し、地域防災への理解の深化を図る。